

第2回 鴨川市前原横渚海岸周辺の魅力づくり推進委員会 会議録

■開催日時・場所・出席者

日時 : 平成29年11月28日(火) 午後2時30分から午後4時00分まで

場所 : 鴨川市役所4階大会議室

出席者 : 以下のとおり

【出席委員】

No.	氏名	備考
1	藤巻 武仁	(一社) 鴨川市観光協会 副会長
2	清水 宏	鴨川市商工会 観光サービス業部会長
3	福田 雄一郎	鴨川市商工会 前青年部長
4	久根崎 達郎	鴨川温泉旅館業協同組合 専務理事
5	水谷 好伸	鴨川ライフセービングクラブ 会長
6	中橋 健二	鴨川シーワールド 営業推進支配人
7	菅原 明善	(一社) 鴨川市青年会議所 副理事長
8	立野 健児	鴨川ライオンズクラブ若獅子支部 会長
9	川井 幹雄	鴨川サーフィンクラブ 会長
10	村永 信吾	鴨川市健康づくり推進協議会 会長
11	原田 洋美	NPO 法人鴨川ガイド協会 理事
12	渡辺 淳一	城西国際大学観光学部 教授
13	内山 達也	城西国際大学観光学部 准教授
14	大内 洋	公募による市民

15	岡野 大和	公募による市民
16	川上 周一	公募による市民
17	庄司 修	公募による市民
18	林 良樹	公募による市民

【欠席委員】

No.	氏名	備考
1	鈴木 健史	(一社) 鴨川市観光協会 会長
2	徳山 英樹	鴨川市漁業協同組合 総務部長
3	鈴木 淳	学校法人文理開成学園文理開成高等学校 理事長・校長
4	橋詰 良子	地域おこし協力隊

【オブザーバー】

No.	氏名	備考
1	松井 寛徳	合同会社 鴨川市観光プラットフォーム

【市行政関係者】

所属・職	氏名	備考
鴨川市長	亀田 郁夫	
鴨川市参事	岩田 知也	事務局・ 海辺のまちづくりプロジェクトチームリーダー
鴨川市観光課長	山口 昌宏	事務局・ 海辺のまちづくりプロジェクトチームサブリーダー
鴨川市観光課長補佐	小柴 則明	事務局
鴨川市観光課新たな観光づくり係長	鈴木 勝亮	事務局
鴨川市観光課観光係長	廣部 保幸	事務局

■配布資料

- 鴨川市観光プラットフォームについて
- 地方創生推進交付金申請書
- 本日のアジェンダ・検討資料
- アイデアシート
- アイデア深掘りシート

■会議要旨

1 開会（午後2時30分）

2 あいさつ

渡辺委員長より開会のあいさつがなされた。

委員長から、本日の会議の議事録署名人として、川井委員及び原田委員が指名された。

3 議事

(1) 推進委員会開催予定の変更について

市長より説明

観光は鴨川の中で重要な切り口であり、絶対に必要なものである。そのため、観光協会や商工会、旅館組合等観光に携わる組織を一つにまとめ、鴨川観光プラットフォーム株式会社を設立し、市が7割の株式をもち、運営をしていく。これまでそれぞれが実施していたイベントや宣伝の仕方、HPの作り方も一つに集め、観光を今後どうしていくのかを話し合い、決めていきたい。今後、委員会を設立するため、それぞれが得意な分野に参加して頂き、意見を出していただきたい。

小湊小学校と天津小学校の統合に向けた教育の準備委員会を来月以降設立する。その後、小学校の跡地をどのように活用していくかも観光・商業の面からも捉えていきたい。また、みんなみの里に良品計画が参画するため、農業の6次化を進めていく。さらに国保病院の建替えがあり、病院連携を含めた医療のシステムを構築するために、プラットフォームの中で整理を進める。

サッカー、野球、サイクリング等さまざまなスポーツが鴨川市で行われており、スポーツを通じたまちづくりも考えていきたい。この委員会を通してどうやって進めていくことが良いのかを打ち出してもらいたい。

(2) 事業推進主体としての鴨川市観光プラットフォームの組織改編について

「鴨川市観光プラットフォーム」に基づき、鴨川市観光プラットフォームの組織目的や運営体制について鈴木係長が説明。

(3) 今後のスケジュール等について

- 地方創生推進交付金申請書に基づき、事務局小柴が説明。

スケジュール的には、今年度については、事業の方向が不透明であり、推進委員会を行わない場合もある。（必要に応じて招集）

参考として、現段階の平成30年度予定の事業についても説明。

(4) グループディスカッション

(アジェンダ)

- ① グループごとに検討したいテーマの選択
- ② テーマの実現に向けたアイデア検討
- ③ 鴨川観光プラットフォーム株式会社として取り組むべきと考えるアイデアへの投票
- ④ 最も多くの票を集めたアイデアを具体化する方法の検討

(グループワークの協議結果 要旨)

■グループA

- 鴨川に対する「魚介類」の期待値が非常に高い。
- 「魚」が一番おいしい時期は冬季であり、週1回程度マーケットを開催し、親子での魚捌き体験や食事提供を実施することで、「おいしいお魚を食べられる」といった明確なテーマをもったイベントを開催する。

■グループB

- 「冬季集客に向けた取り組み」として、温泉施設の活用やウィンタースポーツの実施、鴨川有料道路の無料化、ウィンタープロジェクトマップ等アイデアが上がった。
- 東京ドイツ村等でプロジェクトマップは非常に集客力を上げている。鴨川市で毎週末プロジェクトマップを市役所や鴨川駅で投影し、鴨川市で遅くまで観光して頂くことにより、鴨川市にお金を落としてもらおう仕組みを構築する。
- プロジェクトマップを通して、鴨川らしさを出していくことで鴨川を知ってもらう機会につなげていく。

■グループC

- いくら良いアイデアを出しても実行できる人がいないと実現できない。
- 「地場産業M&A」を提案する。初めからビジネスモデルや収益モデルを考えて成功することは難しい。そのため、地域の中である程度事業として成り立ち、お客を抱えているお店や事業体をプラットフォームがM&Aをし、地域としての財産、伝統文化を合併、事業支援をする。その結果、これまで事業の縮小として捉えられていたものを事業の拡張として推進することができる。
- 既に成り立っている事業を活用することでリスクが少ない経営が可能になる。
- プラットフォームを誰がやるのか。いま担当しているという観点で行政から出向させるのではなく、課をまたぎ成功させることができる人材を選出しないとプラットフォームを成功させることはできないと思う。

■グループD

- 鴨川の山と海をつなげ、里山里海トレイルランまたはトライアスロンを開催する。
- 開催に向けて、山を整備し、整備した山の間伐材等の木を温泉施設のバイオマスにし、エネルギーの地産地消を目指す。イノシシなどのジビエをトレイルランのランナーに食べていただく。

- モンベル等と提携し、コースづくりから様々な方に参加して頂くことにより、みんなでトレイルランを作っていく。
- 自転車やカヤックもできるように整備することで、年間を通して様々なレースが可能になる。参加型にすることで、お客さんではなくまちづくりを行うことで鴨川を好きになってもらい、世界大会の開催を目指す。

(5) その他

(質疑)

- 次回の会議の開催予定の状況はどうか？
- 次回も委員の皆様から様々なアイデアを集める機会としたい。年度内の開催を想定しているが、次期は未定である。本委員会の目的が変更になっている点もあるため、それらも考慮しながら検討していきたい。

(事務連絡)

- 次回会議は開催方針が決定した後、Eメールにて通知を行う。
- 議事録作成後に代表委員に内容確認と署名を依頼する。

4 閉会

鴨川市附属機関等の会議の公開に関する実施要領第7条第3項の規定により、会議録の内容について確認します。

平成 29 年 11 月 30 日

川井 幹雄

原田 洋美
